

令和6年度 夏休み前終業式

(講話79)

令和6年7月18日【ぬし 2】

おはようございます。

いよいよ明日から夏休みですね。きょうはまず、前回からの続きで学校の「主」についてお話します。

前回のお題は、「子どもが主人公になるお掃除ってどうしたらいいのでしょうか？」

「そうじする場所を自分で決めたい」「掃除場所を、学年学級できめるのではなく、個人で決めたらいい」などのすばらしい意見をたくさんいただきました。この1学期間、本当に毎回貴重なご意見を書いていただきありがとうございました。この場を借りて書いていただいたお友だちに、改めてお礼申し上げます。

さて、今日はこんなお話から始めます。少し前に、ある教室で1枚のマスクが落ちていたそうです。担任の先生が気付いて、近くの人に「このマスクだれの？」と聞いてもみんな「ぼくのじゃない」「私のと違う」とだれも拾おうとしませんでした。結局、お昼になってある児童が拾い上げ「これ、誰の？」と聞いてもだれも答えなかったので、その子がマスクをゴミ箱に捨ててくれました。

なぜ、落ちていたマスクを、すぐにだれも拾わないのでしょうか？

この画像は、2週間ほど前に階段で見つけたゴミです。ほうきで集めたものをちりとりで取り忘れたものです。

取り忘れた人も、うっかりしていたと思いますが、これにはもっと大きな問題があります。それは、校長先生がこれを見つけたのは、3時間目だということです。このゴミはその前のお昼からずっとそこに放置されていたということに、校長先生は心を痛めました。

どうして落ちているゴミを誰も拾わないのだろうか？

授業は、全国の先生が見に来るほどになっているのに、落ちているゴミ一つひろえないのでしょうか？

校長先生は、毎朝犬のメリーちゃんとお散歩にでかけます。そのときいつもゴミ袋を持って出かけます。理由は、メリーちゃんのおトイレのためです。そして公園を通るので、ゴミも拾います。

アメリカで大活躍している野球選手といえば、大谷選手ですが、彼のゴミ拾いも有名ですね。こちらの動画をみてください。大谷選手はライトフライに倒れましたが、ベンチに戻ってくる途中で、グラウンドに落ちているコンビニ袋を拾って帰ってきました。大谷選手には他にもたくさんゴミを拾っている動画が上がっていますが、「ぼくはゴミではなく運（ラッキー）を拾っていると考えている」とインタビューで答えていました。

このゴミ拾いでなんと会社をつけた人がいます。こちらの動画を見て

みてください。この会社の社長は細井愛菜という人です。彼女はコロナで学校に行けなくなった3年生からゴミひろいをはじめ、なんと4年生のときには、ゴミ拾いの会社を立ち上げて、もっと地球をきれいにしようとがんばっています。ゴミで作品をつくったり、ごみひろいイベントを行ったりしているそうです。

彼女もゴミではなく、誰かが落とした運をひろっていると、動画では語っていましたね。このように、ゴミ拾いをがんばって会社をつくり社長をめざしても構いませんが、そこまでだいそれたことでなくても、せめて目の前のごみを拾う人になってほしいなあと校長先生はねがうばかりです。

それが、学校の主人公「ぬし」になるということではないでしょうか？

富山県の堀川小学校を思い出してください。結局子どもが主人公になるお掃除ってどうしているのでしょうか？

- ①前の日に「ここ汚れているな」という場所をみつけておきます。
- ②次の日の朝、登校すると昨日掃除しようとした場所に自分の名前マグネットを貼り付けます。
- ③その場所の掃除に必要なほうきやぞうきんを持っていきます。
- ④もちろん、危ない場所には行きません。また友だちとおしゃべりをしに行くのでもありません。
- ⑤ひとりひとりが学校の主人公に

なっていっしょうけんめい掃除をします。

さて、夏休みです。このあとのお話や、担任の先生の注意をよく聞いて、楽しい夏休みを過ごしてください。8月27日元気な皆さんの笑顔と再びお会いできるのを楽しみにしています。

今日も最後まで静かに聞いていただきありがとうございました。